

# もしもし

エドモントン

「もしもし」日本語版読者様へ

去る五月に、「もしもし」日本語版を発行して以来、本号で、ヤ三回となりますが、これまで、再度にわたって、日本語版の内容や名称について、読者の皆様の御意見、御希望をお伺いして致りました。しかし、残念なことが、編集者の中には、今日までに、一通の御使用も、一回の電話もなく、全く無反応となっており、商社新聞や、雑誌などのマス・メディアなら、実際に読まれていくかどうかはともかく、購読数がある程度、読者の反応を知ることができますが、クラブ会報のようは、ミニ・コミ・メディアでは、読者が、投稿や投書なども通して、積極的に参加することなくしては、編集者には、皆様の反応がわかりかねますし、ひいては、編集者とまごころがけができません。

そこで、この際、会報名も借用してお願いいたしますが、「もしもし」日本語版読者様へ、どんな御意見、御希望でも結構です。日本語版内容変更のためには皆様の声をお聞かせ下さい。(先日は、はるかながたの、バンクーバー移住者の会)より、会報交換の方便りといいただきました。本号では、読者参加の新しい試みとして、平塚信太郎氏に特別にお願いし、最近出版された日本に関する本の書評と掲載しました。  
(編集担当：川島洋一、筆耕担当：塩沢千秋)

## クラブ行事ニュース

エドモントン日本人クラブ会報

一九七八年度エドモントン日本人クラブ会報は、

来る十月三十一日(土)午後六時半より、嶺南中華料理店(10582-104 STREET)で開催されます。役員改選、及び当会報告に引き続き、「かくし屋」などもありますので、会費の如何と問わず、皆様の御参加をお待ちしております。今五からは、日本人クラブ会費の拡大をねらって、日米人、日本人関係グループより役員代表を送り出したことになっております。参加御希望の方は、伊藤晴子夫人(467-0454)まで、大至急御連絡下さい。なお、会費等は、一人8ドル50セントです。

・ITVテレビ、ワレッジ・スクエア・シリーズ

エドモントンの独立テレビ局ITVでは、今シーズンより、ワレッジ・スクエアという、アルバータに住する各種民族の生活・習慣・文化を描いた一時間の特レビシリーズを製作放送することになりました。日米人についても製作されることになっておりますので、この番組は参加御希望の方は、フルー夫人(422-3752)鶴岡大尉(475-7147)清倉博士(436-4535)まで大至急御連絡下さい。

・エドモントン日本人クラブ・クリスマス・パーティー

恒例の、エドモントン日本人クラブ・クリスマス・パーティーは、来る十二月三日(日)午後一時半より、ボニー・エー・コンミニニヤ・ホールで行われます。今日は、日本人コミニニヤ・スクール(日本語学校)児童生徒のコーラス、寸劇が加わり、塩沢山のプログラムとなりますので、余興は参加御希望の方は、伊藤晴子夫人(467-0454)まで御連絡下さい。クリスマス・パーティーの詳細については、次号(11月号)でお知らせいたします。



## 各地の会報より

\*三日米人にカナダ教育授与される。

「モントリオール・ブルテン」(一九七八年八月十九日発行)によれば、一九七八年度カナダ教育「Order of Canada」受賞者六十人の中、三人の日米人が選ばれました。カナダ連邦政府大臣兼教育の庄山トム氏、バンクーバー日本語学校の創立者、佐藤依氏、及び、長年の生活指導者知られてゐる、乗原キチ女史の三人です。これぞ、日米人のカナダ教育賞受賞者は、七名となりました。

\*バンクーバー・ヘリテージ・ワレッジに 日本語風呂 完成。

バンクーバー日米市民協会「会報」(一九七八年八月号)によれば、日米カナダ人移民百年祭記念事業の一として、ヘリテージ・ワレッジに建築中の日本語風呂がこの程完成、去七月二十三日に贈呈式が行われたとのこと。

\*カナダ独自の日本語教育教科書の作成の動き。

バンクーバー移住者の会「会報」(一九七八年九月号)によれば、ブリアウツ・コロンビア州日本語教育協会(日米日本語学校の団体)が日米カナダ人のために、独自の日本語教科書の作成と計画しているとのこと。一オ、バンクーバー日米市民協会「会報」によれば、バンクーバーをはじめ、スタブス・トン、サレー、クイーンズヘッド等の各地に日本語学校があり、特に、スタブス・トンには、英語と母国語とする日米人子女のために、カルナルニア発行の「わだしたちの日本語」と教科書として使用しているようです。エドモントンの日本人コミニニヤ・スクールは、且令及び母国語の如何と問わず、日本語能力をもつてクラスを編成し、日本の学制に従い、

書評

平塚保之

「内村鑑三と無教会」

カール・カルグローラ著

日本の検定教科書と使用して、授業を行ってあります。日本語の解りない日米人、白人のためのクラスもあるのです。このような動きには、大いに注目しております。

著者のカール・カルグローラ氏は、アルバート大学、社会学科の教授である。この著者は、氏が一九六四年以来、教壇にわたって、日本に滞在して調査研究の結果、カルフォルニア大学で提出された学位論文「THE MUKYOKAI MOVEMENT IN JAPAN: WESTERN CHRISTIANITY AND JAPANESE CULTURAL IDENTITY」(日本における無教会運動—西欧キリスト教と日本の文化的風土—)の邦訳である。宗教は、その国の文化的背景との関係なしには論ずることが出来ない。ユグヤ地方に発生し、二千年にわたって組織され、体系づけられ、西欧文明にちかわれて、発展、変化して来たキリスト教が、一体、本当に、日本人のものになり得るか(土着化)という問題は大きい。

内村鑑三によって始められた、いわゆる無教会キリスト教は、この問題にとり組み、日本のキリスト教、とも言える独自のグループとして注目すべき群である。信者の絶対数は少ないが、多くのユニークな指導者と輩出してあり、日本の宗教界、教育界において無視できない存在である。無教会の人々は、既成のキリスト教が現在持っている組織や儀式は、イエスの直接教えたものではないとして排斥し、聖書に直接聞く事と、単純な信仰と交りの内に持ちこたうことを最も

大切なこととしている。彼等は、教会堂をもたず、主に、個人の家で、聖書研究を主体として集会を多くの指導者を中心として日本各地で続けている。

カルグローラ教授は、この群の多くの人々と面談し、大小の集会に出席して資料を集め、多大の文献からの考察も含めて、無教会キリスト教の発生と展開と、史的、構造的に分析している。全体的なむづかしい問題を論ずると同時に、ある集会の細部にわたる説明、主な指導者達の、競争や社会問題に対する発言や行動、北海道一家村の信者はまつわるエピソードといった興味深い記述も多く含まれている。教授は、無教会運動の意義を大きく評価して、好意的に論じているが、一方、この運動の弱点も指摘し、鋭い批判もしている。

この本は、無教会キリスト教論ではあるが、西欧と日本の文化の比較、西欧文化の土着化、信仰と政治、といったも、とない問題に対する独自の論評でもある。そのキリスト教に特に関心を持つておられない方々にも一読をすすめるべきだ。イタリヤ人のカナダ人である、カルグローラ氏が、異国である日本で、言語も習得されて、この様な立派な仕事をまとめたことには、たいへん敬服する他ない。

エドモントンには、カルグローラ教授の他にも、ヤング教授(社会学、人類学)、ジョーンズ教授(「史学」)など、日本文化に造詣の深い学者がわらわら、我々がこれらのオマカから学ぶべきものが多くあると思う。

編集後記

今月号には、あらたに試みとして、平塚氏による書評と、カナダ各地の日米人会からよせられた会報にかつたニュースをのせてみました。これらについて、皆様の御意見、御希望をおまちしております。

編集部一同



YOUTH CONFERENCE PAYS OFF!

NATIONAL JCCA MEETING DELAY

You think the Centennial Youth Conferences last year were a waste of time and energy? After breaking the ice at Toronto, moving into high gear while planning the Calgary event, Jayne Takahashi and Keith Yamauchi have some fond memories of those long hours of work (it seems not all the time was work).

The National JCCA meeting which was set for the Thanksgiving weekend at Vancouver was postponed a couple of months ago to allow the subcommittees (constitution, Japanese language schools, culture, redress campaign) more time to prepare their respective reports. The national meet was postponed to next spring, in Vancouver.

Anyway, Jayne and Keith are now engaged! Both are studying hard (maybe not all the time) at Saskatoon, while Jayne pursues graduate studies in veterinary medicine and Keith the law school. And to think the first time they dated last summer, they didn't know what to do with each other, each never having dated a Sansei before. Congratulations, Jayne and Keith! We shall never disparage youth conferences.